

私鉄車両めぐり 第5分冊

鉄道ピクトリアル 1864年7月号・臨時増刊 通巻第160号

表紙 大分交通別大線1101……………奈良崎博保

グラフ

磐梯山を背景に走る沼尻鉄道……………	1
留萌鉄道……………	2
小坂鉄道……………	3
日本硫黄沼尻鉄道……………	4,5
茨城交通水浜線……………	6,7
三重交通志摩線……………	8
防石鉄道……………	8,9
頸城鉄道……………	90,91
大分交通別大線……………	92,93
日本鉱業佐賀関鉄道……………	94,95
頸城鉄道の冬の立役者……………	96

記事

①留萌鉄道……………	小熊 米雄…9
②小坂鉄道……………	金沢 二郎…18
③日本硫黄・沼尻鉄道……………	青木 栄…28
④茨城交通・水浜線……………	中川 浩…37
⑤頸城鉄道……………	小林宇一郎…46
丸山車輛覚書……………	中川 浩…53
⑥三重交通志摩線……………	矢納 重夫…54
⑦防石鉄道……………	窪田 正実…62
⑧大分交通・別大線……………	奈良崎博保…68
⑨日本鉱業・佐賀関鉄道……………	谷口 良忠…79
国鉄軽便線用車両称号規程について	谷口 良忠…87
私鉄車両めぐり第4分冊補遺……………	88

「私鉄車両めぐり」〈第5分冊〉発行に添えて

私鉄車両めぐり別冊の刊行も、本号で第5冊目を迎えた。このようないわば特殊なシリーズが連続して発行できたことは、現代の私鉄車両研究熱が極めて高い水準を保っている証左であって、喜ばしいことといわねばならない。

昭和35年12月に刊行された第1分冊では「もはや戦後ではない。新たな前進は開始されている」（鉄道ファンと地方私鉄）と結ばれているが、第1分冊刊行以来約4年間の私鉄研究の進歩はすばらしいものがあつた。回を重ねる毎に単に内容が詳しくなるだけでなく、方法論的に新しい試みが数多く導入されて、漫然たる紹介ではなく、理論的に武装された内容の記事が多くなってきたことは正しく「新たな前進」であつた。

第5分冊に収録された9社の私鉄は、必ずしも全部が難解な鉄道ではない。しかし執筆者の方々は、これまでの方法では考えられなかった程の長期に亘る準備と調査の期間を費されて、単なる1回の探訪で安直にかかれた私鉄レポートなどというものは、「私鉄車両めぐり」に限る限り昔話になってしまっている。それと同時に一人の執筆者がいかに多くの他の研究者の協力を受けたかも理解せねばならない。研究者はもはや一人あるものでは

なく、互いに協力しあって前進するものなのである。この第5分冊が、執筆者の慎重な長期に亘る調査と、多くの同好の研究者の協力によって完成されたことは銘記すべきであろう。特に、最近中小私鉄の間では経営難から営業路線を廃止するケースも出ている折柄、本分冊がその実体の一面を提供できたとすれば、発行の意義は少なしとしない。

本分冊の内容検討には中川浩一、青木栄一、グラフ編集割付には高松吉太郎氏に御手数をお煩わしたことを付記して謝意を述べたい。また、巻末に第4分冊の補遺を掲げたが、紙面のつごうで、判読できる誤植については勝手ながら省略させていただいたことをお詫びする。

〔表紙写真〕「大分交通別大線1101」 奈良崎 博保
1100系2両永久連結車(1101A+B) 39. 3. 27
大分駅前にて

ミノルタSR-7 オートロッド P F1.8 f:5.6 1/500

〔1頁写真〕「磐梯山を背景に走る沼尻鉄道」 青木 栄一
DC121+シボフ3+ボハク11+サハ9 39. 4. 28
川桁一白津間にて

アサヒペンタックスSV オートタマー F1.8 f:5.6 1/250